

日本医科大学東洋医学科活動報告

部長・教授	高橋 秀実
非常勤講師	三浦 於菟
非常勤講師	平馬 直樹
医局長・医員	古賀 実芳(H19.2まで)
医局長・医員	高久千鶴乃(H19.3から)
医 員	高久 俊
医 員	廣田 薫
医 員	吉永 恵実(H19.4から)
非常勤鍼灸師	内池 正弘(H19.3まで)
非常勤鍼灸師	藤田 勇
非常勤鍼灸師	菊地 順彦
非常勤鍼灸師	二階堂成己
非常勤鍼灸師	福岡 豊永
非常勤鍼灸師	國嶋 徹(H19.4から)
看護師	稲垣 桂子
秘書(鍼灸師)	日高 珠保
顧 問	胡(菅沼)栄
研 修 生	斉藤 均(都立広尾病院)

沿革

本科は、平成2年7月、東京都千代田区飯田橋にあった日本医科大学付属第一病院の東洋医学外来として発足した。平成4年6月、日本医科大学付属第一病院東洋医学センターと改名し、病院長直轄の診療研究教育組織となった(当時のセンター長は藤木健一)。平成9年7月、付属第一病院の閉院に伴い、文京区千駄木にある日本医科大学付属病院の東洋医学科として移転、東洋医学科発足当初から当科の維持・発展に尽くされた三浦於菟先生が部長となり、日本医科大学における東洋医学科が確立された。平成15年4月には日本東洋医学会の研修指定施設(指導医:三浦於菟、春木英一)として認定された。平成17年2月、部長の三浦於菟先生の東邦大学医学部東洋医学科教授への転出に伴い、日本医科大学微生物学免疫学教室教授で日本東洋医学会指導医の資格を有する高橋が東洋医学科部長を兼務することとなった。さらに平成19年からは日本アレルギー学会の研修指定施設(指導医:高橋秀実、新谷英滋)としても認定された。

診療活動

平成17年2月より東邦大学医学部東洋医学科教授として転出された三浦於菟先生の後任として、それまで先生が築かれた日本医科大学における東洋医学の火を消さないために高橋が東洋医学科の

部長を引き継ぐこととなった。その後、大学側の意向により免疫療法実施施設として現在の丸山ワクチン研究施設内に移り、平成17年4月からは平馬直樹先生を非常勤講師として、また中医師として活躍中の胡栄先生を顧問として迎え新たな体制で診療を継続している。日本医科大学付属病院の他科からの紹介患者も次第に増え、現在の1外来体制では患者をさばききれない状況となっており、この1年間の総外来患者数はさらに増加傾向を示し延べ6000人に達しようとしている。全科からの紹介患者を受け入れているため、疾患の種類はあらゆる分野に亘ると同時に、様々な科との併診となって治療が進められる場合が多い。その中でも、西洋医学では根治しにくい難病である、再発性あるいは転移した悪性腫瘍(癌)、リウマチや膠原病などの難治性進行性疾患、慢性腎炎や慢性肝炎、アトピー性皮膚炎を含むアレルギー性疾患、不妊症や生理不順を含む婦人科疾患、うつ病を主体とする精神神経疾患など多彩な疾患患者が老若男女を問わず来院する。もちろん、こうした患者群が感冒や胃腸炎・膀胱炎などの急性疾患を起こした場合には、抗菌剤などの西洋医学の薬剤の併用を含め適宜対処するとともに、必要に応じてCTスキャン、MRI検査、超音波検査などの様々な特殊検査を診察時のコンピュータ画面上でオーダーできる大学付属病院ならではの特徴を有している。また、後述するように、本東洋医学科では、前期研修2年目の研修医を受け入れているため、これら研修医の教育を含め、西洋医学の検査あるいは治療の併用を積極的に取り入れ、東洋医学と西洋医学を合体させた独自の医療の展開をめざしている。また、バックに大学の付属病院が控えているため、様々な疾患を抱えた入院患者さんも本科の治療の対象となることがあり、西洋医学的な治療に生薬あるいは鍼灸治療の併用を実施するとともに、それらの結果を定期的に行う研修医や医学生を交えたカンファレンスで検討している。

教育啓蒙普及活動

1) 卒前教育(医学部学生に対し)

3年生に対する基礎配属:日本医科大学では、報告者高橋が医学部3年生を対象とし「東洋医学的視点も含めた生体に内在する免疫応答力への理解」というタイトルのもと、およそ17年前から選択学生に対し中医学の講義主体とした陰陽五行説を含めた東洋医学の具体的な内容や基礎的な鍼灸

理論、また高橋が関与する各種診療所や病院での鍼灸治療や湯液治療の実践見学、免疫学を背景とした科学的な薬理作用の概説、そしてツムラの茨城工場でのエキス剤製造過程、薬理研究所および薬草園の見学を実施してきた。因みに平成19年度は選択者23名に対し1回1時間30分から2時間、総計20回の講義を実施した。例年このコースの選択者は非常に多く、全学生が100名足らず、コースが80コース程度あるにもかかわらず15~25名がこの東洋医学コースを選択している現状は、医学部学生が潜在的に東洋医学への興味を抱いていることを示唆している。

4年生に対する東洋医学の教育：日本医科大学では、前任者の三浦於菟先生の時代から、医学部4年生を対象とし精神医学コースの中で東洋医学の講義を実施しており、平成19年度も昨年に引き続き高橋が独自に作成したテキストをもとに講義を担当した。また、本年度より基礎医学を修了した医学部3年生に対して行われる「臨床医学入門」コースにおいて従来の倍の時間数を講義することになり、いよいよ医師としての素養の一つとしての学問体系として東洋医学が認められつつある状況になってきたと感ずる。しかしながら、まだ大学全体としては講義時間が足りないと考えられるため、今後は少しずつ講義時間を増やしていく予定である。

2) 卒後教育(研修医や大学院博士課程の学生に対し)

新臨床研修制度による研修：東洋医学科での臨床研修も軌道に乗ってきたようで、平成19年度は日本医科大学付属病院での医師国家試験取得後内科・外科などの臨床研修を終えた2年目に当たる総計40名の研修医のうち、7名が総計10ヶ月間、本東洋医学科で研修を積んだ。現在の状況では、一度に2-3名の研修医を教えるのが限度であり、大変もったいないことではあるが教育スペースも含み、実際には当科での研修を選択する希望者を断わらざるを得ないのが現状である。これらの研修医は配属された期間は全て東洋医学を学んでおり、将来東洋医学を自分の医療に取り込んで行きたいと考えているものの集団である。こうした研修医は東洋医学科のカンファレンスにも参加させ、自分が診た症例などについて報告させている。今後は、更にスタッフを充実させ研修スペースの拡大を目指し、より多くの研修医に東洋医学の素養を与えて行きたい。こうした、東洋医学科で研修を積んだ者に対しては、研修修了後も声をかけ、出来るだけ毎月1回実施している東洋医学科でのカンファレンスに参加させている。

3) 一般教育(一般大衆や医療者に対し)

平成19年度は、6月15日(金) - 17日(日)に広島で開催された日本東洋医学会のみならず、様々な学会や講演会で医局員が東洋医学に関する学術講演をするとともに、平成19年8月5日(日)には東京の湯島ガーデンプラザホテルで第5回日本中医学交流会大会を高橋が会長となり教室員全員の協力の下、総勢300名近い参加者を得て主催することができた。この大会では、「感染症に対する温病治療：SARSは攻略できるか」とのタイトルを掲げ、実際に100名以上のSARS患者の診療に関わり、その大多数を温病学の方剤を駆使することによって救った広州中医薬大学教授の林琳先生をお招きしご講演を賜った。

研究活動

生薬が作用する部位は粘膜、特に小腸の粘膜組織であろうとのこれまでの仮説に基づき、さらに研究を展開している。こうした小腸の粘膜部位には従来末梢血中に認められた異物に対する記憶形成能を有する獲得免疫系を構築する細胞群のみならず、自然抗体を産生するB-1細胞やNKT細胞、そしてランゲルハンス細胞に代表される樹状細胞群などが局在する。こうした粘膜局在型細胞群が細菌群由来の物質によって活性化するか否かを確認する目的で検討を重ねた結果、胃粘膜などの粘膜組織に局在する自己免疫との関連が指摘されているB-1細胞が、ピロリ菌のウレアーゼという酵素によって活性化しリウマチ因子を産生すること(Infect. Immun., 74:248-256, 2006)、経口投与された抗原の一部が分解されずに粘膜から吸収され門脈中に散見されること、そして、こうした粘膜吸収抗原が免疫寛容状態を誘導するために食事などを通じて体内に取り込まれた様々な抗原に対して過剰な応答が起りにくくなっていること(Immunology, 119:167-177, 2006)などを見出すと共に、こうした抗原がコレラ毒素などとともに経口的に取り込まれた場合には、粘膜局所を中心に強い免疫応答が誘発され、その免疫力によって粘膜から発生した腫瘍の成長が抑制されることを明らかにした(J. Immunology, 180(6):4000-4010, 2007)。こうした事実は、粘膜投与型の生薬群がある時には体内免疫応答を抑制し、また逆に亢進させる可能性があることを示唆している。もし多くの症状が生体の応答性に起因するならば、様々な生薬群を組み合わせ経口投与することによって、小腸に局在する粘膜免疫システムが調節され、その結果体内の応答性を正常化する医学の必要性は大であり、生薬を用いた漢方治療はこのようなタイプの物ではないかと考え今後さらに研究を進めていく予定である。更に本年度は自然界に存在しな

い D-型のアミノ酸を認識する免疫システムや病原体の粘膜持続感染に関わる遺伝子の実体なども明らかにした。

著書

- 1) 林英生、岩本愛吉、神谷茂、高橋秀実：ブラック微生物学（第2版），（丸善出版），2007
- 2) 菅沼 栄：いかに弁証論治するか【続編】，漢方エキス製剤の中医学的運用，（東洋学術出版社），p1-282，2007

総説

- 1) 山西慎吾、神谷茂、高橋秀実：ピロリ菌ウレアーゼによる B-1 細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性，日本ヘリコバクター学会誌，2007，8：22-26
- 2) 高橋秀実：母乳を介したエイズウイルスの感染伝播，日本エイズ学会誌，2007，9：11-16
- 3) 高橋秀実：第5回日本中医学交流会大会：感染症に対する温病治療 SARS は攻略できるか，中医臨床，2007，28：374-379
- 4) 高橋秀実：第5回日本中医学交流会大会：感染症に対する温病治療 SARS は攻略できるか，伝統医学，2007，10：150-153
- 5) 高橋秀実：ワクチンによる特異的免疫機能の誘導：ヒトにおける抗原特異的免疫機構，治療学，2007，41：1041-1045
- 6) 高橋秀実：T細胞とリウマチ様関節炎，リウマチ科，2007，38：565-570
- 7) 新谷英滋、高橋秀実：樹状細胞の機能と HIV-1 Nef 臨床免疫・アレルギー科 2007 48:623-629
- 8) 高橋秀実：免疫応答とエネルギーのめぐり，癒しの環境研究会会誌，2008，13(1)：34-35
- 9) 若林あや子、高橋秀実：感染症と栄養・機能性食品，日本栄養学会雑誌，2008，4(6)：373-380
- 10) 高橋めぐみ・高橋秀実：遊離抗原による CD8+T細胞のアポトーシス誘導，臨床免疫・アレルギー科，2008，49(2)：233-238
- 11) 高橋秀実：HIV 感染伝播における母乳中細胞の役割，血液フロンティア，2008（印刷中）
- 12) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第1回 尾台榕堂『方伎雑誌』から，伝統医学，2007，10(2)：66-72
- 13) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第2回 山田業広・業精『井見集付録』より，伝統医学，2007，10(3)：154-160
- 14) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第3回 本間棗軒『内科秘録』より，伝統医学，2007，10(4)：210-217

原著

- 1) Watanabe Y., Watari E., Matsunaga I., Hiromatsu K., Dascher C.D., Kawashima T., Norose Y., Simizu K., Takahashi H., Yano I., Sugita M.: BCG vaccine elicits both T-cell mediated and humoral immune responses directed against mycobacterial lipid components. *Vaccine*, 24: 5700-5707, 2007
- 2) Nakagawa Y., Kikuchi H., Takahashi H.: Molecular analysis of TCR and peptide/MHC interaction using P18-I10-derived peptides with a single D-amino acid substitution. *Biophysical J.*, 92:2570-2582, 2007
- 3) Takahashi M., Watari E., Shinya E., Shimizu T., Takahashi H.: Suppression of virus replication via down-modulation of mitochondria short chain enoyl-CoA hydratase in human glioblastoma cells. *Antiviral Res.*, 75:152-158, 2007
- 4) Wakabayashi A., Nakagawa Y., Shimizu M., Moriya K., Nishiyama Y., Takahashi H.: Suppression of Already Established Tumor Growing through Activated Mucosal CTLs Induced by Oral Administration of Tumor Antigen with Cholera Toxin. *J. Immunol.*, 180(6):4000-4010, 2007
- 5) Fukazawa Y., Miyake A., Ibuki K., Inaba K., Saito N., Motohara M., Horiuchi R., Himeno A., Matsuda K., Matsuyama M., Takahashi H., Hayami M., Miura T.: The small intestine is the most vulnerable target tissue regardless of virus pathogenicity in SHIV-infected rhesus macaques. *J. Virol.*, 2007(submitting)
- 6) Saito N., Shinya E., Shimizu M., Owaki A., Watanabe E., Takahashi M., Hidaka C., Ibuki K., Miura T., Hayami M., Takahashi H.: Invariant T-cell receptor mediated functional cross-reactivity of natural killer T cells to species-specific CD1d among primates and rodents. *J. Immunol.*, 2007(submitting)
- 7) 平馬直樹、矢数芳英：中国伝統医学，治療(増刊号)，2007，89(suppl-1)：916-922

学会発表

国際学会

- 1) Takahashi H.: Cellular HIV dissemination and expansion at the mucosal compartment. Japan-US Cooperative Medical Science Program: The 20th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels. September 13-14, 2007 (Monterey)

国内学会

- 1) 山西慎吾、神谷 茂、高橋秀実：ピロリ菌ウレアーゼによる B-1 細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性，第 13 回日本ヘリコバクター学会 一般講演 神戸，2007，6. 22-23
- 2) 廣田 薫、高久 俊、日高千鶴乃、古賀実芳、平馬直樹、高橋秀実：高 CPK 血症を伴い温裏剤と桃核承気湯の併用により著明な改善を示した冷え症の 1 例，第 58 回日本東洋医学会学術総会 一般講演 広島，2007，6. 15-17
- 3) 高橋秀実、廣田 薫、日高千鶴乃、高久 俊、真弓暢子、古賀実芳、平馬直樹：アレルギー疾患に関する解表剤の有効性，第 58 回日本東洋医学会学術総会 一般講演 広島，2007，6. 15-17
- 4) 日高千鶴乃、廣田 薫、高久 俊、古賀実芳、平馬直樹、高橋秀実：未治療の多発性硬化症に対する湯液治療の一例，第 58 回日本東洋医学会学術総会 一般講演 広島，2007，6. 15-17
- 5) 高橋秀実：免疫学的な視点から見た SARS に対する温病学的治療の意義，第 5 回日本中医学交流会大会 特別講演 東京，2007，8. 5
- 6) 平馬直樹：傷寒と温病に関する基礎知識，第 5 回日本中医学交流会大会 特別講演 東京，2007，8. 5
- 7) 高橋秀実：温病における舌診の意義，第 5 回日本中医学交流会大会 特別講演 東京，2007，8. 5
- 8) 菅沼 栄：温熱病を傷寒症と誤治した症例「温病」の治療禁忌)，第 5 回日本中医学交流会大会 特別講演 東京，2007，8. 5
- 9) 高橋めぐみ、渡理英二、清水真澄、新谷英滋、高橋秀実：麻疹ウイルス変異株の持続感染に関与する宿主因子・その 3，第 55 回日本ウイルス学会学術集会 一般講演 札幌，2007，10. 21-23
- 10) 渡理英二、高橋めぐみ、渡邊恵理、大脇敦子、新谷英滋、高橋秀実：樹状細胞およびランゲルハンス細胞サブセットの麻疹ウイルスの感受性とサイトカイン産生能，第 55 回日本ウイルス学会学術集会 一般講演 札幌，2007，10. 21-23
- 11) 高橋秀実：HIV 感染と免疫応答，第 21 回日本エイズ学会学術集会 一般講演 広島，2007，11. 28-30
- 12) 新谷英滋、大脇敦子、清水真澄、渡邊恵理、高久千鶴乃、高橋秀実：Analysis of the down-regulation of CD1-mediated lipid /glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 第 21 回日本エイズ学会学術集会 一般講演 広島，2007，11. 28-30
- 13) 高久千鶴乃、渡邊恵理、大脇敦子、清水真澄、松村次郎、高久 俊、渡理英二、新谷英滋、高橋秀実：CD4 陽性 NKT 細胞と HIV-1 による感染拡大への相互作用. 第 21 回日本エイズ学会学術集会 一般講演 広島，2007，11. 28-30
- 14) 松村次郎、清水真澄、高久千鶴乃、近江恭子、吉田岳市、秋山純一、新谷英滋、岡 慎一、高橋秀実：HIV 患者の腸管粘膜組織における感染細胞の探索. 第 21 回日本エイズ学会学術集会 一般講演 広島，2007，11. 28-30
- 15) Higuchi T., Takahashi M., Kobayashi F., Inagaki S., Nakagawa Y., Kumagai Y., Takahashi H. : Study on a possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma. 第 37 回日本免疫学会総会 一般講演 東京，2007，11. 20-22
- 16) Takeuchi H., Shimizu M., Mayumi N., Norose Y., Takahashi H. : Characterization of virus-producing breast milk monocytes transformed with HTLV-1. 第 37 回日本免疫学会総会 一般講演 東京，2007，11. 20-22
- 17) Kumagai Y., Takahashi H. : Analysis of the interaction between HIV-1-gp120 V3 region and -chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at the immunoglobulin hyper-variable regions. 第 37 回日本免疫学会総会 一般講演 東京，2007，11. 20-22
- 18) Shinya E., Owaki A., Shimizu M., Watanabe E., Matsumura J., Negishi Y., Takaku C., Takahashi H. : Down-regulation of CD1 lipid/glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 第 37 回日本免疫学会総会 一般講演 東京，2007，11. 20-22
- 19) Takahashi H., Saito N., Shimizu M., Owaki A., Watanabe E., Takahashi M., Ohmi K., Takaku C., Shinya E. : Cross-reactive cytotoxicity of CD1d-NKT cell system between primates and rodents. 第 37 回日本免疫学会総会 一般講演 東京，2007，11. 20-22
- 20) Moriya K., Wakabayashi A., Shimizu M., Watanabe E., Takaku S., Dan K., Takahashi H. : Effects of 33D1+ or DEC-205+ dendritic cell depletion on cytokine secretion and tumor growing in mice. 第 37 回日本免疫学会総会 一般講演 東京，2007，11. 20-22
- 21) 高橋秀実：漢方と免疫. 第 7 回小児アレルギー免疫研究会 特別講演 東京，2. 16

講演

- 1) 平馬直樹：弁証論治の実際その 3，神奈川実践

- 漢方勉強会 教育講演 横浜, 2007, 1. 21
- 2) 菅沼 栄: 温裏剤, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 1. 25
 - 3) 高橋秀実: 漢方と免疫, 第6回東京大学実践漢方セミナー 特別講演 東京, 2007, 2. 7
 - 4) 菅沼 栄: 温裏剤, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 2. 22
 - 5) 平馬直樹: アトピー性皮膚炎の漢方治療, 山梨中医学研究会 一般講演 甲府, 2007, 3.
 - 6) 平馬直樹: 中医診断治療の進め方, 阿蘇漢方シンポジウム 一般講演 熊本, 2007, 3.
 - 7) 菅沼 栄: 温裏剤, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 3. 22
 - 8) 平馬直樹: 弁証論治概論, 仙台中医学研究会, 一般講演 仙台, 2007, 4.
 - 9) 菅沼 栄: 金匱要略解説, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 4. 26
 - 10) 菅沼 栄: 蔵腑経絡の先後病の脈・証, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 5. 24
 - 11) 菅沼 栄: 瘧・湿・喝病の脈・証, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 6. 28
 - 12) 平馬直樹: 漢方中医学講座 中医基本処方解説 その1 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2007, 7. 21
 - 13) 平馬直樹: 気の病証と治療, 仙台中医学研究会, 一般講演 仙台, 2007, 7.
 - 14) 菅沼 栄: 瘧・湿・喝病の脈・証, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 7. 26
 - 15) 菅沼 栄: 瘧・湿・喝病の脈・証, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 9. 27
 - 16) 菅沼 栄: 瘧・湿・喝病の脈・証, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 10. 25
 - 17) 平馬直樹: 中医基本処方解説その2 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2007, 10. 27
 - 18) 平馬直樹: 血の病証と治療その1, 仙台中医学研究会, 一般講演 仙台, 2007, 10.
 - 19) 菅沼 栄: 百合・狐惑・陰陽毒病の証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2007, 11. 22
 - 20) 平馬直樹: 弁証論治の臨床応用, 沖縄中医学研究会, 一般講演 宜野湾, 2007, 11.